

GKN ぐんま高校

授業改善新聞

2017年3月9日 第15号 発行

群馬県総合教育センター 高校教育研究係

長期研修員 新井裕之 (県立前橋高校) 坂爪 誠 (高崎高校)

「未来を生き抜く力」育成

言語活動・統計 研修活発



ポスターセッションで発表する新井研修員

言語活動指導者養成研修 思考・判断・表現の力育成へ 教科と日常つながり協議

言語活動指導者養成研修(教員研修センター・秋田県教育委員会主催)と統計指導者講習会(総務省主催)に新井研修員が参加。主体的・対話的で深い学びを実現するための言語活動の充実と「国策」と言われる統計教育を他県からの参加者と学んだ。

言語活動指導者養成研修が、秋田県総合教育センター(潟上市)で3日間にわたり開かれ、全国から165名の教育関係者が参加した。文部科学省の水戸部修治教科調査官は「言語活動の充実の在り方」について説明。「記録、論要約、説明、論述といった言語活動の充実が、生徒の思考力・表現力・判断力の育成を促す」

将来へ両輪育成 統計指導者講習会 数字見る目とデータ説得

統計指導者講習会が、総務省第2庁舎(千代田区)で開催。統計は「顕微鏡と対抗」科学的道具」として今後さらに重要だとされる。統計的表現に対する批判的に解釈する力」と統計データを上手に説得する力」の重要性を学んだ。愛知教育

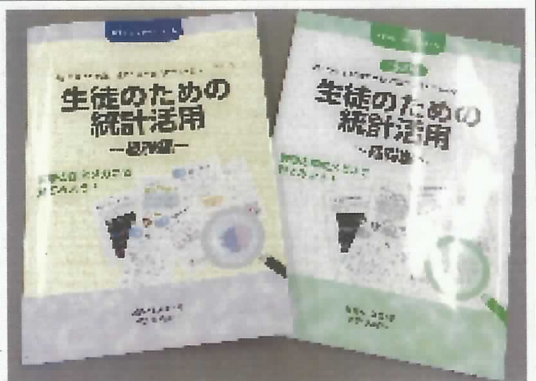
と同調査官は話す。言語活動の充実と次期学習指導要領での生徒の「主体的・対話的で深い学び」の実現とを関連づける必要性を説き「単元や題材のまとまりの中で言語活動の指導を計画してほしい」と期待した。グループ演習ではカリキュラム・マネジメントや教科指導での計画を作成。新

井研修員は、数学A「条件付き確率」について、導入時の指導案「検査結果と病気の罹患」を3名と作成。1万人に1人とされる病気の検査(精度99%)で陽性が出た際に実際に病気である確率を考える指導を計画した。発表後は日常生活とつながりについて意見交換した。(県立前橋・新井)

◇目と芽 研修員から◇ データに惑わされない力。数字で相手を説得する力。考えを表現する力。変化の激しい時代を生きる生徒にますます重要になる。カリキュラム・マネジメントと関連づけながら指導を探りたい。

大・青山和裕教授が、次期教育課程における統計教育の展開について基調講演。青山教授は「統計的な表現を批判的に解釈する力の育成が必要」と、ニュース番組でのグラフの目盛り間隔の操作、商品満足度の例を挙げて説明。統計を解釈する力の育成には「統計的表現を使用する企業や団体の意図等についても注意する」とよいと明かした。また、青山教授は「統計データか

同教材ではデータに基づく問題解決過程としてPPDACサイクル(Problem↓Analysis↓Conclusion)を活用。21世紀型スキルとして「科学的に問題を解決して判断する力が重要」と強調した。PPDACサイクルと照合しながらグループで事例を考え、ビッグデータ時代の統計教育の重要性を確認した。(県立前橋・新井)



統計教育教材「生徒のための統計活用～基礎編～」 [URL] http://www.soumu.go.jp/toukei_toukatsu/index/seido/stkankyo.htm で閲覧可

ら新たな情報が見られること、カーナビの走行データから事故多発地点を発見して対策を実施したデータ活用事例を示した。慶應義塾大・渡辺美智子教授は、自らが作成に携わった中学生以上対象教材「生徒のための統計活用」基礎編」を紹介。